

史 談

2025 (R 7) 9. 18

■本年度史談会総会を開催しました

暑い日々が続く中、6月21日(土)に本年度の総会を下記のように開催いたしました。今回から総会と講演の順番を入れ替え、講演は一般の人にも聞きやすくしたつもりでした。



講演の講師は鶴岡市大鳥で活動している田口比呂貴(たぐち ひろき)さんでした。田口さんは、村山市の生まれですが、大学卒業後、電子部品メーカーにつとめ、営業職をしていましたが、2年ほどしているうちに、お金を稼ぐだけの自分の生活に疑問を感じ、「山で生活してみたい」と思うようになりました。そこで、京都府福知山市で山暮らしをしている人のところを訪ね、山暮らしの色々を教わった後、平成25年(2013年)5月から、地域おこし協力隊員として鶴岡市大鳥で暮らし始めました。協力隊員としての任期が終えた後も大鳥に住み続け、現在は家が鶴岡にあるものの、大部分は大鳥で過ごしているということです。

鶴岡市大鳥は、山形県庄内地方の南端、旧朝日村の最南端に位置し集落は広大なブナ林に囲まれています。県内屈指の豪雪地帯で、最大積雪量は3m以上になり5月まで雪が残る所です。

大鳥では、矢口高雄の『釣りキチ三平』で有名になったタキタロウが生息しているという大

鳥池がよく知られています。しかし、その歴史は古く、大鳥池は8世紀に高僧行基によって発見されたといわれています。

また、大鳥も開村は鎌倉時代であって、曾我兄弟の仇討ちで討たれた工藤祐経の一族、工藤大学によって開かれたとも伝えられています。

さて、本題の大鳥の魚類調査のことですが、継続しているフィールドワークの時、「昔はもっとたくさん魚がいたんだ。」という話を聞いたことなどがきっかけになっているそうです。

令和6年(2024年)夏に友人と大鳥の魚類調査を始めたのですが、ダムが造られ、砂防ダムが次々と造られている河川や気候の変動、生業の変化によって、そこに住む魚類も変化していることがわかったということです。紙面の関係がありますので、これ以上詳細は記しません。興味を持たれた方は詳、田口さんが作っているwebページ「大鳥てんご」(<https://ootori-tengo.com/>)を御覧いただきたいと思います。

さて、総会の内容は、下記のとおりです。すべて承認されました。

- 1 令和6年度事業報告及び収支決算報告
- 2 役員改選(全員留任)

顧問 江口儀雄 平吹利数
会長 守谷英一 副会長 佐藤京一
事務局長 加藤晃一 事務局員 大内紀子
幹事 高橋克範 横山和浩
会計 竹田伊智子
幹事 嶋林淳子 長澤千恵子

- 3 令和7年度事業計画及び予算案

■令和7年度史談会会研修旅行について

本年度の白鷹町史談会研修旅行を下記のように開催します。

- 1 期日 令和7年10月9日(木)
集合時間 午前8時(荒砥地区コミセン)
- 2 行先 新潟県彌彦神社など
主な見学場所
①澤将監の館
②彌彦神社及びその周辺
③燕市産業資料館

澤将監の館」は、甲斐の武田信玄の家臣、澤将監が、武田氏滅亡後、上杉氏を頼って越

後に入り、元和2年(1616年)に村庄屋になった人の館です。

昭和36年(1961年)の第二室戸台風の際に被害を受けてしまいましたが、正確な家相図を元に、平成6年(1994年)に復元されたものです。

彌彦神社は万葉の昔より「おやひこさま」とひろく人々の篤い崇敬を集めた神社です。式内社(名神大社)、越後国一宮で、旧社格は国幣中社、現在は神社本庁の別表神社という大きな神社です。

燕市産業資料館は、モノづくりまち燕の金属加工産業の歴史を伝える史料館です。

展示内容は、江戸時代から400年続く燕の金属加工技術発展の歴史を最新映像で紹介するとともに、現在も活躍する金工作家や人間国宝の作品のほか、貴重なキセルコレクションや5,000本に及ぶ世界中のスプーンもあります。

3 参加費(見学料金、昼食代も含む)

会員 1,500円

非会員 2,000円

4 参加申込み

10月1日(水)まで下記に

町教育委員会 生涯学習・文化振興係

電話 0238(85)6146

■葬具一式の収蔵

大内紀子

白鷹町歴史民俗資料館(あゆみしる)に新たな収蔵品が加わりました。十王本宿の葬具一式です。

棺桶にかける打ち敷をはじめ、死者を迎えにくる来迎の阿弥陀如来の掛軸や、四花などを飾る葬儀用の祭壇(雁木。がんぎ)。六合(ろくごう)という団子などを盛る六角形の器、線香立て、りん、ロウソク立て、屏風などがあります。他にも葬式当日に使う昼食のお膳、椀、お念仏の道具もあります。これらの道具は、順番で個人宅に保管しており、葬式の時に借りました(近年は本宿公民館に保管)。

葬儀用の祭壇を初めて見たので、地域の方に組んでもらいました(写真)。皆さんの地域で

はどうだったでしょうか?教えてください。

『白鷹町史』には、十王では葬式当日にお念仏を行い、これを「タチネンブツ」と呼んでいました。荒砥では亡くなった日から念仏をあげ、葬式当日は行わないとあります。

こういった風習は地域によって異なるため大興味深いです。



写真 葬儀用の祭壇

■さまざまな情報

10月5日(日)に置賜民俗学会の「民俗を訪ねる」が開催されます。午前9時30分に道の駅川みなと長井に集合し、丸大扇屋、古代の丘資料館、古四王神社、蘊安神社などを訪問します。参加費は500円(昼食、入館料別)です。御希望の方は、9月27日(土)までに守谷英一へお申し込みください(090-8255-7763)。

あゆみしるでは、建築家の濱定史氏と美術家の永岡大輔氏を招いた企画展「もうひとつの暮らしの回路(ルート)」を開催しています。

濱氏は、茅葺き屋根や民具といった現在使われなくなった道具や技術を現在に合わせた形で再び実装する作品を展示します。永岡氏は、「これまでにない線を引くにはどうすればいいのか」を考え、生活そのものを捉え直した「球体の家」を出展します。

お二人の真摯かつ遊び心のある作品を通して、古い技術の新たな可能性や今までにない生活を楽しみましょう!

期間:~11月2日(日)まで
の金・土・日曜日

観覧料:一般200円、中学生以下
無料、団体100円

